

被災地におけるトマトといちごの営農再開に向けて

- ▶ 全国1位のトマト産地、全国3位のいちご産地の中心である八代市、氷川町が地震により被災。
- ▶ 生産現場では、苗の必要量は確保済み。現在、トマトは定植作業中、いちごは9月中旬定植開始予定。用意した苗は全て植え、計画通りの生産を実現したい。
- ▶ 計画通りの収穫と出荷に向けて、生育期の水の確保、集出荷体制の整備が課題。

支援策のポイント

生育期の水の確保

(用水復旧、給水車の配置、貯水タンクの利用など)

支援策のポイント

集出荷場の復旧

代替施設の確保



(いちご)

和鹿島いちご部会に参加し農業者の水の確保状況の把握 (8/18)。

聞き取りによる補足調査を開始し (8/21)、水の確保状況がわかる地図を作成。

現在、水の確保に向けて、幹線・支線用水の応急復旧が進んでいる。



定植前のいちごの苗



(トマト)

追加対策工事による通水量の増量、給水車の設置 (八代市)



定植が完了したトマトのほ場



- 7月28日に発生した地震により、熊本県内では、**八代市、宇城市、氷川町を中心に農地・農業用施設等に甚大な被害**が発生。（被害か所数：農地5,066箇所、農業用施設等10,017箇所（8月30日時点））
- 農林水産省農村振興局では、**技術職員をMAFF-SATとして現地へ派遣**し、被害状況の調査、被災市町村緊急訪問、応急対策の実施等の**技術的支援を実施**。派遣者数は地震発生直後から8月31日までに**延べ3,315名・日**。
- また、**農業用水の確保に向け**、熊本県等と連携し、**水路などの応急復旧や用水ポンプの貸し出し、ポンプ車の派遣**など必要な支援を実施。

【農地・農業用施設等の被害状況】（8月30日時点）

	農地	農業用施設等
熊本県	5,035 箇所	9,997 箇所
全体※	5,066 箇所	10,017 箇所

※ 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県



農地の亀裂（益城町）



水路の損壊（氷川町）



ため池堤体の損傷（宇城市）



排水機場での液状化（八代市）

【MAFF-SATによる支援（農村振興局関係）】

延べ3,315名・日
(7/28~8/31)

その他
430名・日

応急対策等
935名・日

被災市町村緊急訪問
151名・日



被害状況の調査等
1,799名・日



- 広域的に農業用水の供給が困難となった地区は、国営かんがい排水事業で農業用排水施設の改修を実施中の「八代平野地区」（八代市：約5,400ha、氷川町：約20ha）と、県営かんがい排水事業で農業用排水施設を整備した「氷川下流地区」（氷川町：約1,100ha）
- 国営八代平野地区は、幹線用水路を国が、これより下流は土地改良区等が応急復旧を実施
- 県営氷川下流地区は、熊本県が応急復旧を実施しており、国も技術的支援に協力
- 応急復旧の更なる加速化による早期の用水供給を図るとともに、それまでの間の暫定的な用水手当てのため、用水ポンプの貸し出しや給水車の派遣など必要な支援を迅速に実施

【国営八代平野地区】

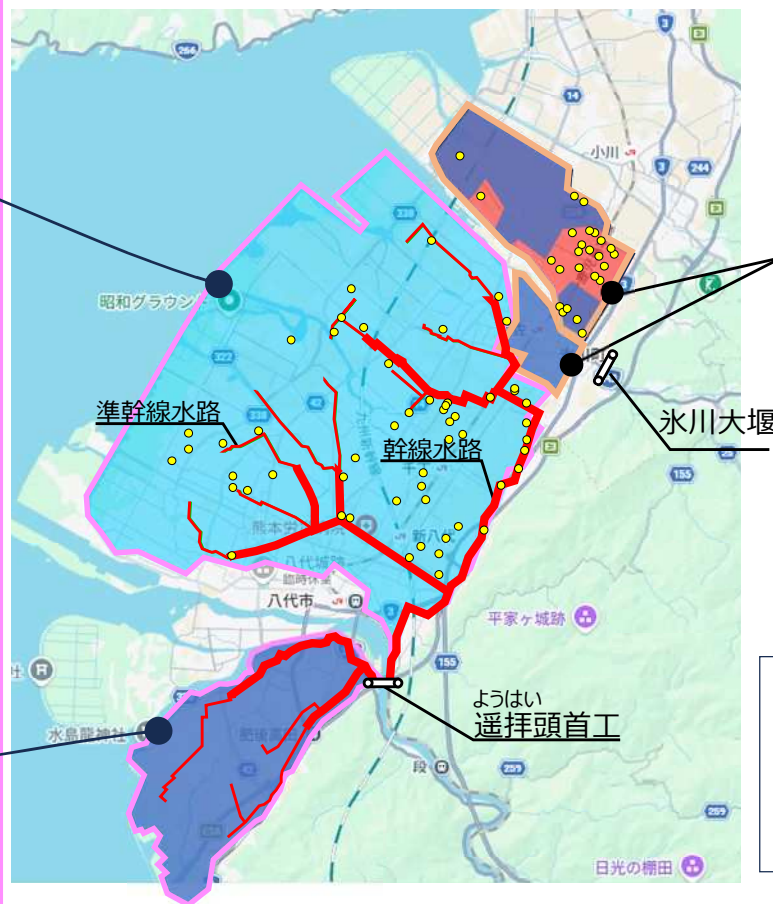
受益面積 約5,400ha

①球磨川北岸地域（約4,400ha）

- ・ 幹線水路約27kmの全線において応急復旧工事を行い、8月8日に通水可能であることを確認後、同日より農地への配水を開始。
- ・ 通水量の増量のため、沈下した幹線水路の水路壁をかさ上げる応急工事を実施。
- ・ 通水量の増量により必要な用水量を確保できるまでの間、区域を分けたローテーション配水のほか、排水路や沢水から幹線水路への注水、応急ポンプによる幹線水路から末端水路への送水等を実施中。

②球磨川南岸地域（約1,000ha）

- ・ 幹線水路約7kmのうち、全線で応急復旧工事が完了。全線で用水供給再開済み。



【県営氷川下流地区】

受益面積 約1,100ha

- ・ 現在、約800haにおいて用水供給中。
- ・ 用水供給が停止された約300haの供給再開に向けて、幹線用水路の応急復旧工事を実施中。
- ・ なお、用水供給再開までの間は、ポンプを設置する等により用水を供給していく。

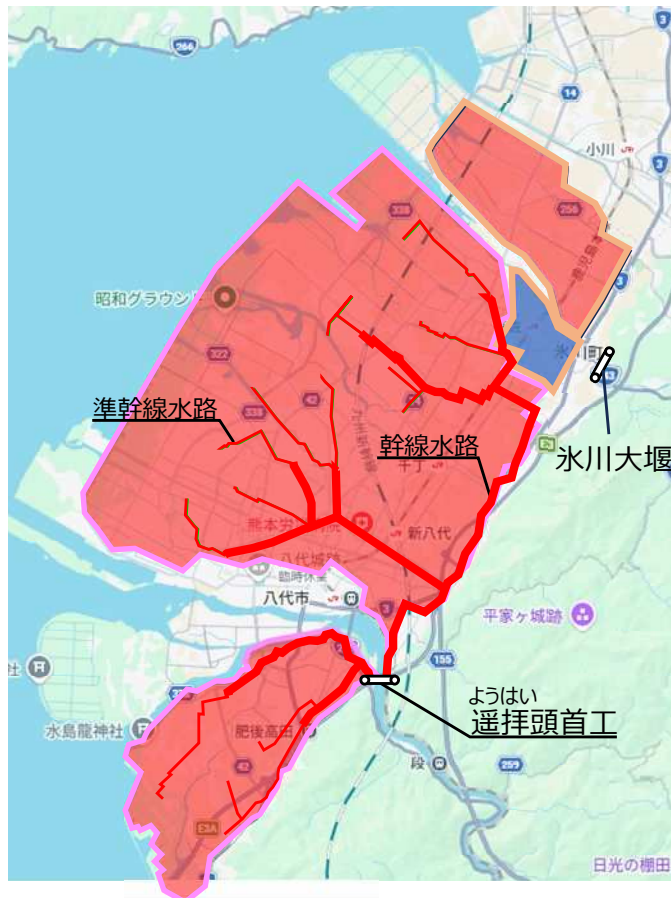
- 用水供給中
- 用水供給中（用水確保対策実施中）
- 用水供給停止
- 応急ポンプ設置箇所

【令和8年熊本地震】農業用水の供給状況について

参考資料

【7月28日時点】 (発災直後)

- ・ 広範囲において幹線水路等が損傷。
- ・ 頭首工施設の損傷が無いことを確認し、球磨川からの取水及び幹線水路への通水停止。
- ・ 損傷箇所の確認に着手。
- ・ 暫定的な用水手当のためのポンプ（8月2日から稼働）及び給水車（8月3日から稼働）確保に着手。



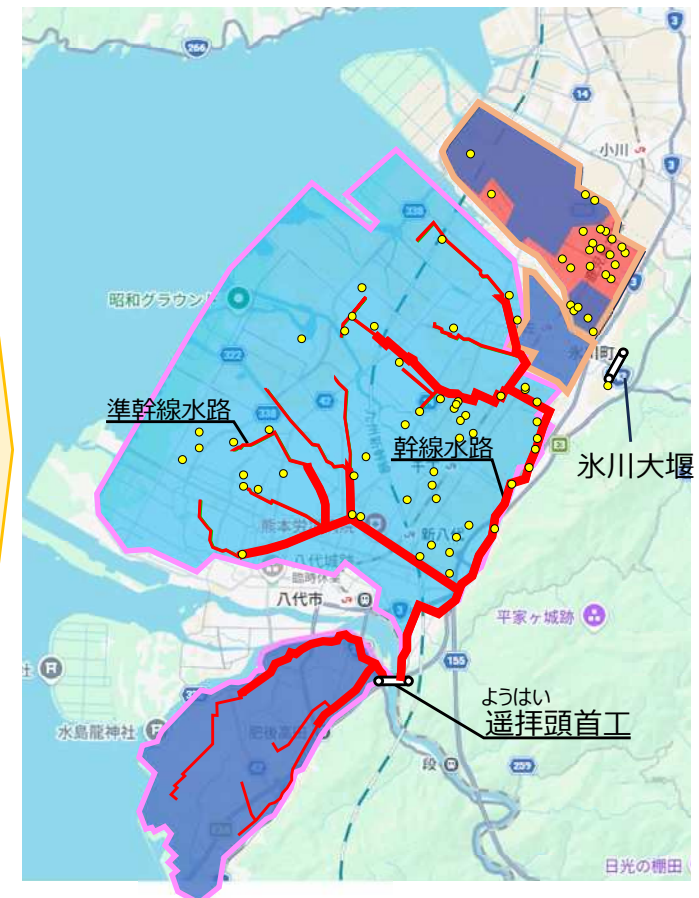
【8月8日時点】 (順次、用水供給開始)

- ・ [北岸地域] 幹線水路等の応急復旧工事を行い、通水可能であることを確認のうえ、農地への配水を順次開始（通水量の減を踏まえ、区域を分けたローテーション配水を実施）。
- ・ [南岸地域] 末端水路の損傷による一部の用水供給停止地域の応急復旧工事に着手（8月12日から用水供給再開済み）



【8月24日時点】 (現在)

- ・ ローテーション配水等の緩和に向け、通水量の増量のため、沈下した幹線水路の水路壁高上げ、排水路や沢水から幹線水路への注水等を実施。
- ・ 用水の農地への配水状況を情報収集し、配水支障箇所に応急ポンプ等による対応を順次実施。



■ 用水供給停止
 ■ 用水供給中（試験通水完了）
 ■ 用水供給中（用水確保対策実施中）
 ■ 用水供給中
 ● 応急ポンプ設置箇所

- 早期の用水供給を図るための応急復旧を実施中
- 主にイチゴ等の園芸作物農家に対し、給水車による用水供給について、JA及び土地改良区を通じて地域に周知し、希望農家の全てに配水中。3地点の給水車9台で延べ414回を配水（8月24日時点）。
- 用水路の応急復旧までの間、農水省保有を含めポンプ190台、ポンプ車4台を配備し、用水路に用水を補給（8月24日時点）。
- 引き続き、農家からの要望に応じ、必要な応急対策を実施

【国営八代平野地区】

被災状況



応急復旧後の試験通水



応急復旧後の通水状況



給水車による配水



ポンプによる農業用水の供給



【県営氷川下流地区】

幹線用水路の被災状況



応急復旧に向けた倒壊家屋撤去



幹線水路の仮復旧状況



応急的な取水のための用水路の充水



給水車用の応急取水ポンプ設置



【国営八代平野地区】

- 応急復旧工事を実施し、8月8日より、農地約4,400haへの送水を再開。8月16日より送水量の増量に取り組み、8月23日までに末端水路の最下流部まで配水されていることを確認。

【県営氷川下流地区】

- 8月22日から応急復旧した幹線用水路の充水試験を実施。25日、上流域の約190haの大半の農地において幹線用水路からの用水供給が可能となった旨、農家に周知。

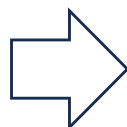
【国営八代平野地区】

8月29日及び30日、沈下した水路壁の嵩上げ及び漏水箇所
の補修を実施。

8月4日



8月22日

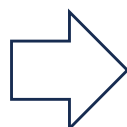


追加工事により送水量を増量

8月24日



8月30日



水路壁の嵩上げ

【県営氷川下流地区】

8月31日までに幹線用水路約13.6kmのうち約11.3km
まで充水完了。



■インフラ施設の復旧(道路、鉄道、港湾、河川、上下水道)

OTEC-FORCEの活動

- ・全国から国土交通省TEC—FORCEが集結し、被災状況調査や、給水・トイレ及び電源支援等の災害対策機械による応急対策の技術支援を実施。
- ・令和8年8月31日は、八代市、氷川町など3市2町において約80人が給水支援などの活動を実施中。
- ・令和8年7月28日の被災直後から、これまで6市4町を中心に、のべ約5,300人・日で活動を展開(リエゾン等含む)

被災状況調査

▼ヘリによる上空からの被災状況調査及び映像の提供



宇城市

▼橋梁の被災状況調査



宇城市

▼デジタル機器を用いた被災状況調査



氷川町

▼岸壁背後の被災状況調査



八代港

▼ドローンによる被災状況調査



甲佐町

▼九州地方整備局広報活動



公式Xにて情報発信中 広報班の現地活動

【宇土市】

- ・被災状況調査(河川)
- ・給水支援

【宇城市】

- ・被災状況調査(河川・道路)
- ・給水支援
- ・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援(三角港)

▼調査報告書の手交、説明(8/20)



【氷川町】

- ・被災状況調査(河川)
- ・給水支援、電源支援

天草市

上天草市

【天草市】

- ・被災状況調査(港湾)

【熊本県】

- ・現地災害対策本部(連絡調整等)
- ・被災地上空調査
- ・機械操作、映像撮影、情報通信
- ・JETT等の派遣 等

【熊本市】

- ・被災状況調査(熊本城公園)
- ・給水支援

【嘉島町】

- ・照明車支援
- ・給水支援

【甲佐町】

- ・被災状況調査(道路、のり面)
- ・応急対策班

【美里町】

- ・電源支援・被災状況調査

【八代市】

- ・被災状況調査(港湾・河川・道路)
- ・給水支援
- ・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援(八代港)

凡例

- ...活動中
- ...活動終了

令和8年8月31日現在:のべ約5,300人・日

被災者支援

▼照明車による人命救助活動の支援



黒島町

▼断水発生による給水支援



宇城市

▼防災用コンテナ型トイレの派遣



宇城市

▼ボランティアセンターへ対策本部車を提供



氷川町

▼電力復旧までの電源支援



氷川町

■インフラ施設の復旧(道路、鉄道、港湾、河川、上下水道)

(1)道路

＜高速道路(E3A南九州道)＞ ※NEXCO管理:八代JCT～日奈久IC、国管理:日奈久IC～田浦IC

- ・八代JCT～八代南ICにおいて、引き続き復旧作業に伴う通行止めを継続。
- ・8月29日復旧に関する有識者委員会を開催、今後は、早期通行止め解除を最優先する観点に合致した2案について技術的課題を具体的に検討し、次回委員会において復旧計画を決定予定。

＜直轄国道(直轄高速除く)＞

- ・被災による通行止め:なし

(2)鉄道

- ・JR九州新幹線(熊本駅～新水俣駅)は、9月18日(金)より運行再開予定。
- ・JR鹿児島本線(宇土駅～八代駅)は、10月中旬頃の運行再開を目指す。
- ・肥薩おれんじ鉄道(肥後田浦駅～水俣駅)は、9月1日(火)より運行再開予定。
(八代駅～肥後田浦駅)は、9月上旬に再開時期を公表予定。

(3)港湾

- ・八代港の主な岸壁について、貨物船による利用可否の判断が8月28日に完了。その結果、外港地区10m岸壁の利用可能部分が150mから235mに拡大し、大型船受入など利便性が向上。
- ・8月31日には当該岸壁で鋼管杭の荷役が再開され、9月2日に原木輸出の荷役を再開予定。
- ・コンテナクレーンについては、概ね11月末までにレールが応急復旧する見込み。
- ・本格復旧に向けて、8月28日に第2回「八代港被災施設復旧技術検討委員会」を開催、9月中に復旧にあたっての設計方針を取りまとめ予定。

(4)河川

- ・白川水系・緑川水系・球磨川水系内の国管理8河川で堤防の損傷被害。
8月7日を以て、対象全91箇所について、応急復旧完了。

(5)上下水道

＜水道＞

- ・8月28日にすべての水道本管の応急復旧が完了。

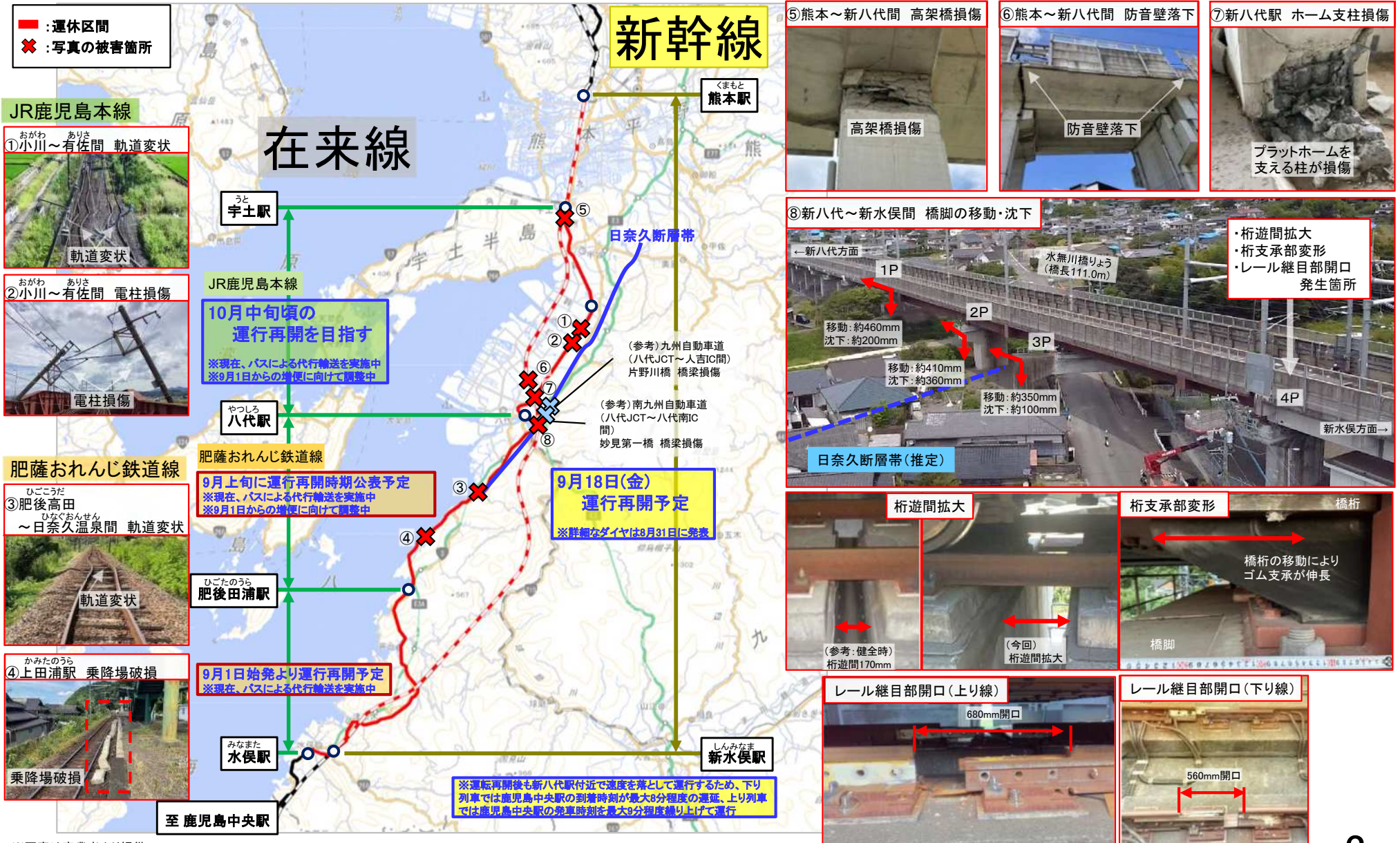
＜下水道＞

- ・応急復旧調査は約282kmの管路を対象に実施し、さらに、応急復旧が必要な8箇所について、8月13日に点検・応急復旧作業は完了したものの、その後、3箇所で見つかり、2箇所に対応済み、残り1箇所に対応中(下水道は使用可能)。

- 災害緊急調査 被災した公共土木施設に対する応急措置や復旧工法等の技術的な助言・指導を行うため、9月1日(火)に国土交通本省から災害査定官を現地に派遣し、災害緊急調査を実施予定。

国土交通省(現地対策本部)からの報告【鉄道関係】

令和8年熊本地震 鉄道の復旧予定等



※写真は事業者より提供

8月28日
85m分が拡大



貨物船、クルーズ船が利用可能な岸壁
利用不可能と判断した岸壁



国土交通省による災害緊急調査

○ 熊本地震により被災した公共土木施設に対する応急措置や復旧工法等の技術的な助言・指導を行うため、9月1日（火）に国土交通本省から災害査定官を現地に派遣し、災害緊急調査を実施予定。

【調査箇所】



おざやがわ
▲大鞘川における堤防沈下
（八代市）



うやなぎばし
▲八代鏡線（植柳橋歩道部）の落橋
（八代市）



おがわかしま
▲小川嘉島線における舗装隆起
（宇城市）

「災害緊急調査」

広域にわたる災害や人的被害が発生している等の特別な災害において、国土交通本省から派遣された災害査定官が、現地における災害時の気象、水理及び被害状況を迅速かつ的確に把握するとともに、被災した公共土木施設に対する応急措置及び復旧方針策定の指導を行うもの。

■被災者支援

○応急給水

- ・「現地応急給水支援本部」において、国土交通省の現地派遣職員が日本水道協会と連携し、自衛隊等による給水活動とも調整しながら、避難所・医療機関・福祉施設などの重要施設における給水ニーズを把握し、優先度を踏まえ応急給水を実施
- ・給水車 合計70台(国 18台、日本水道協会 46台、自衛隊 6台)※8月30日現在
- ・水資源機構が保有する可搬式浄水装置を設置し、氷川町において8/9から8/22まで入浴施設への給水に活用。
- ・水道の復旧に伴い、今後の給水活動については、八代市を除く自治体について、ニーズを踏まえ、順次縮小、八代市についてはきめ細かな応急給水を実施。(9月1日から18カ所に拡大。)

○井戸水対応

- ・個人等の井戸については、現地対策本部のもとに設置した「井戸水対応チーム」を中心に、復旧作業を必要とする井戸の戸数や全体像を把握するための調査を実施。順次、被災井戸の洗浄作業等を実施中。

○緊急物資輸送

- ・2次輸送(県→市町村の拠点輸送)は県トラック協会が輸送を手配中。3次輸送(市町村→避難所等)については各自治体が運送事業者のサポートも得ながら対応中。

○鉄道の代行輸送

- ・JR鹿児島本線の不通区間の代行バスについて、8月26日(木)から、宇土駅と八代駅の間でも運行開始。
- ・肥薩おれんじ鉄道の不通区間の代行バスについて、9月1日(火)から、肥後田浦駅～水俣駅間の復旧により、八代駅～肥後田浦駅間に短縮予定。

○住宅

- ・(独)都市再生機構において、被災者向けの住宅提供として、UR賃貸住宅を全国で140戸確保。8月7日より受付開始。
- ・被災者の住まいの確保に関する情報をとりまとめ、8月7日より国土交通省HPに掲載
https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk3_000188.html
(公営住宅等の提供、賃貸型応急住宅の提供、(独)住宅金融支援機構による災害復興住宅融資等、被災住宅の補修等に関する相談窓口、住宅リフォーム事業者等に関する情報)
- ・被災住宅の補修等に関する電話相談のためのフリーダイヤル開設(8月25日)

○観光支援

- ・国による旅行・宿泊料金の割引支援については、約151億円の予備費使用を決定
- ・九州地方における一泊以上の旅行・宿泊商品を対象とした宿泊料金等の割引支援「九州ふっこう応援割」を実施

きめ細やかな応急給水について

- 八代市の給水区域外（球磨川・前川南側）については、現在の給水ポイント（6箇所）に加え、9月より新たに17か所の給水ポイントを設置することにより、地域住民に対するよりきめ細やかな応急給水を実施。
- 9月1日から、現在の給水ポイントも含めて、関係機関と調整が整った18か所において、応急給水を実施。
- 残る5か所については、引き続き設置実施箇所を調整中。



被害を受けた井戸に関する洗浄等の応急的な対応について

- 熊本県は地下水が豊富であり、水道を利用していない地域においては、個人井戸等により水を利用。
- 今回被害が大きかった八代市では、金剛地区等を中心に、被害戸数は約4,500戸(八代市調べ)。
- このため、8月15日より被害状況や住民意向等のアンケート調査を実施し、希望者に対し井戸洗浄等を行う工事業者を速やかに派遣。(県内業者は15社程度であることから、(一社)全国さく井協会等と連携し全国から広域的に業者を確保)
- 回答のあった希望者に対し、順次洗浄等を行うとともに、洗浄等により水が出なければ井戸の修繕等を実施。

＜八代市での井戸の被害状況＞

八代市が市内の井戸の被害状況を調査

井戸を利用していると想定される戸数	うち被害が生じていると想定される戸数
約 15,000戸	約 4,500戸

※その他周辺の断水被害が大きい市町(宇城市、氷川町等)へも被害状況やアンケート対応のニーズを確認中



濁り水が発生した個人宅の井戸(八代市金剛地区)

＜応急的な対応フロー(イメージ)＞

(1) 調査

1) 基礎情報収集

観測井データ、ボーリングデータ、地形図、井戸位置情報 など

2) アンケート

井戸の基礎情報(位置、設置時期、口径、深さ等)、被害状況、対応意向 など

※ 8月15日から金剛地区含む6地区にアンケート開始

(2) 応急的な対応

1) 井戸洗浄

アンケートの結果等を踏まえ速やかに対応

※ 8月19日から洗浄に着手

2) 井戸の修繕等

井戸洗浄により水が出なければ、修繕等を実施

※ 8月20日に八代市に専用窓口を開設



井戸の洗浄作業

○道路交通マネジメント

- ・ 災害発生時における道路交通の確保と円滑な交通マネジメントの実現のため、関係機関が連携し九州地方整備局が中心となり「熊本県災害時交通マネジメント検討会(令和8年熊本地震)」の第6回会合を8月21日に開催。
- ・ 8月27日の国道219号 新萩原橋通行止め解除を踏まえ、引き続き交通状況の変化を踏まえた柔軟な迂回案内などを関係者間で連携しながら対応。
- ・ 南九州道 八代JCT～八代南IC間の通行止めに伴い、熊本方面と水俣方面を通行する際に、一旦高速道路を降り、再度乗り継いだ場合、通行料金の調整を実施中。
また、八代IC及び八代南ICの出口等において、国道3号や県道42号等の迂回路を案内。
- ・ 渋滞対策として、引き続き、道路規制情報、渋滞情報等について、道路情報板、各機関HP、SNS等により提供。
特に、八代市周辺の交通状況については以下のHPで毎日更新。
(国土交通省道路局HP) https://www.mlit.go.jp/road/road_fr4_000201.html

国土交通省(現地対策本部)からの報告【鉄道関係】

令和8年熊本地震 代行バス輸送実施状況等



JR鹿児島本線

運転見合わせ区間：宇土駅～八代駅間(営業キロ24.8km)

○ 8月19日(水)より以下のとおり代行バスを実施中

1. 宇土駅～松橋駅間(松橋循環バス)

所要時間: 約20分(片道)※朝夕の時間帯に約15分間隔で運行

運行本数: 上下計68本【輸送力3,400人/日】

下り(松橋方面) 6:00(始発) 20:30(終発)

上り(宇土方面) 6:00(始発) 20:30(終発)

2. 宇土駅～松橋駅～小川駅間(小川循環バス)

所要時間: 約1時間(片道)※朝夕の時間帯に約20分間隔で運行

運行本数: 上下計46本【輸送力2,300人/日】

下り(小川方面) 6:00(始発) 20:20(終発)

上り(宇土方面) 6:00(始発) 20:20(終発)

運行本数計: 上下計114本【輸送力5,700人/日】

○ 8月26日(水)より以下のとおり代行バスを実施中

3. 宇土駅～八代駅間

所要時間: 約1時間50分(片道)※朝夕の時間帯にダイヤによる運行

運行本数: 上下計14本(各2台で運行)【輸送力1,400人/日】

下り(八代方面) 6:40(始発) 18:50(終発)

上り(宇土方面) 6:05(始発) 18:30(終発)

※上り(宇土方面)のうち2便は新八代駅発

※9月1日からの増便に向けて調整中

肥薩おれんじ鉄道線

運転見合わせ区間：八代駅～水俣駅間(営業キロ49.6km)

○ 8月10日(月)より以下のとおり代行バスを実施中

所要時間: 約2時間20分(片道)

運行本数: 上下計12本【輸送力600人/日】

下り(水俣方面) 5:19(始発) 18:47(終発)

上り(八代方面) 6:47(始発) 20:10(終発)

○ 9月1日(火)から、肥後田浦駅～水俣駅間の復旧により、代行バス区間を八代駅～肥後田浦駅間に短縮予定

所要時間: 約60分(片道)

運行本数: 上下計23本(平日)【輸送力1,150人/日】

下り(水俣方面) 6:05(始発) 19:32(終発)

上り(八代方面) 6:08(始発) 20:47(終発)

※上記のほか、JR九州代行バスに接続する特別便を1便運行

上り(八代方面)水俣駅 4:00発 ～ 八代駅 5:55着

※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

令和8年熊本地震に係る災害派遣について（令和8年8月30日活動実績）

令和8年8月31日
防衛省

概要

- 令和8年7月28日（火）1627頃、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生。
- 同日（28日）1730、熊本県知事から陸自第8師団長（北熊本・熊本）に対し、情報収集、人命救助、物資輸送、生活支援等に係る災害派遣要請があり、同時刻受理。
- 昨日（8月30日）現在、陸自第8師団を中心とする自衛隊員約5,100名態勢で活動。

昨日 （30日） の 自衛隊の 主な活動

【主な活動部隊等】

陸自第8後方支援連隊（北熊本・熊本）、陸自西部方面後方支援隊（目達原・佐賀）、海自艦艇 1隻（うらが）等

【給水支援活動（2市2箇所）】

- 給水車3両
 - ・宇城市、宇土市において、入浴支援のための給水を実施。

【入浴支援（3市4箇所）】

＜宇城市（1箇所）＞

- 陸自第8後方支援連隊
 - ・小川防災拠点センターにて、シャワーによる入浴支援を、午後3時30分から午後11時まで実施。
（午後3時半から午後5時までは要介護者の専用の入浴時間。）

＜八代市（2箇所 ※「はくおうⅡ」含む）＞

- 海自掃海母艦「うらが」、海自佐世保入浴支援隊
 - ・八代港岸壁及び「うらが」内にて、シャワーと浴槽による入浴支援を、午後3時から午後9時30分まで実施。「うらが」内で洗濯支援、健康相談、充電支援を実施。

＜宇土市（1箇所）＞

- 陸自第8後方支援連隊
 - ・宇土アリーナにて、シャワーによる入浴支援を、午後5時から午後10時まで実施。

【PFI船舶「はくおうⅡ」による生活支援】

- PFI船舶「はくおうⅡ」、PFI船舶支援隊（県庁で連絡員として勤務）
 - ・八代港に停泊している「はくおうⅡ」内で、入浴支援等を午前11時から午後1時、午後4時から午後8時まで実施。
 - ・八代港に停泊している「はくおうⅡ」内で、8月30日から2泊3日の宿泊支援及び食事支援を実施。

【連絡員の派遣状況】

- 熊本県庁等に、4箇所・延べ約10名派遣。

活動の様子



【宇城市】陸自による入浴支援の様子※8/5撮影



【八代市】海自「うらが」における入浴支援の様子※8/28撮影



【八代市】「はくおうⅡ」の入浴場